

聖書日課 『からし種』 2020.5.31-6.7

<p>5月31日 (日)</p> <p>エズラ記 7章</p>	<p>「わたしたちの先祖の神、主はほめたたえられますように。主は、このようにエルサレムの神殿を栄えあるものとする心を王にお与えになった」(27節)。ペルシヤの王アルタクセルクセスを通して主は、イスラエルの民をエルサレムの地で礼拝ができるように助けてくださった。神が備えておられる助けは今も聖霊という働きによって私たちに与えられている。</p>
<p>6月1日 (月)</p> <p>エズラ記 8章</p>	<p>「皆一人一人その名が記録されている」(20節)。主が備えて下さる計画の中には、一人一人の名前が記録されていると聖書は語る。イスラエルの民一人一人の名を主が呼び集めてくださっている。イスラエルの民と同じように、わたしたちの名前も主のリストに刻まれていて、主が救いの御手を私たち一人一人に伸ばしてくれている。</p>
<p>2日 (火)</p> <p>エズラ記 9章</p>	<p>「イスラエルの神、主よ、あなたは恵み深いお方です。…罪深い者として、御前にぬかずいております」(15節)。イスラエルの民は捕囚中、異邦の民の中で共同体作りを迫られた。イスラエル人かそうでないかで人を分け隔てすることはできない。イエス・キリストの十字架が異邦の民を主の契約へと結び合わせてくださっている。</p>
<p>3日 (水)</p> <p>エズラ記 10章</p>	<p>「イスラエル人が彼のもとに集まり、男、女、子供から成る非常に大きな会衆ができた。この人々も激しく泣いていた」(1節)。異邦の民と聖なる民の交わりは主とイスラエルの断絶を生む。この言葉を異邦人であるわたしたちはどのように聞くのか。わたしたちは絶縁されるべき存在なのか。十字架の主がわたしたちをも主の民として招いておられることに期待して</p>

<p>4日 (木)</p> <p>ネヘミヤ記 1章</p>	<p>「彼らはあなたの僕、あなたの民です。あなたが大いなる力と強い御手をもって贖われた者です」(10節)。主なる神の計画は被造物のわたしたちには理解できない。神のみ心に従えないわたしの祈りにも耳を傾けてくれる神が贖いの業をそなえてくださっていることを覚えて、神のみ心を祈り求めながら歩みたい。</p>
<p>5日 (金)</p> <p>ネヘミヤ記 2章</p>	<p>「もしも僕がお心に適い、王にお差し支えがなければ、わたしをユダに、先祖の墓のある町にお遣わしてください。町を再建したいのでございます」(5節)。ネヘミヤは自分の故郷が壊されたままの状況を見て、町の再建を祈り求めた。建物だけでなく、イスラエルの共同体を作り上げるためには大きな導きと祈りが必要であることを聖書からしめされる。</p>
<p>6日 (土)</p> <p>ネヘミヤ記 3章</p>	<p>「その傍らにはエリコの住民が一方に、イムリの子ザクルが他方にいて建築に携わった」(2節)。エルサレムの城壁を修復するために、男女関係なく、多くの人が必要な働きを担っていた。主のために自分たちができる働きをささげている。わたしたちは、主の体である教会を形つくるために何をささげることができるのだろうか。</p>
<p>7日 (日)</p> <p>ネヘミヤ記 4章</p>	<p>「角笛の音を聞いたら、わたしたちのもとに集まれ。わたしたちの神はわたしたちのために戦ってください」(14節)。捕囚の間にエルサレムで利権を得た人々が神殿再建を武力で妨害してきた時、ネヘミヤたちがしたことは、神に祈り(3節)、主の御名を唱え(8節)、警備と工事の二手に班分けしたこと(10節)。冷静な対応をする彼らの中心に主への信仰が見える。</p>